

---

# 昔語り

南野蜜柑

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

昔語り

### 【コード】

N65300

### 【作者名】

南野蜜柑

### 【あらすじ】

天帝の皇女、女一の宮が地上を覗き見たときのお話。

天帝の皇女は鏡を通じて地上を眺めていた。

地上は天上と違い、嫉妬や憎悪で満ちあふれている。

人間と天人では格が違うのだ。ここには嫉妬も憎悪もない。争いもなく、天帝のもとに天人たちがよくまとまっている。

人間が汚れて満ちているのは、死があるからだ。死があるから、皆、限られた人生を自分に有利になるように生きようとする。

「本当に・・・人間とは哀れな」

そのとき、一組の老夫婦が目映る。

「何故、行ってしまったのだ」

翁は月に向かって手を伸ばす。

側にいた媪はもう、泣く気力すらない。

「愛していたのに・・・」

皇女は鏡に布をかける。

「なんと、醜い！」天人は泣くことをしない。

泣くのは愚かなことだと思われていた。泣くなんて・・・、自分が不完全なものだと認めているようなものではないか。

しかし、布がかけられた鏡から今度は若い男のすすり泣く声も聞こえてきた。

「こんな薬、要りはしないのに。あの方がいぬ世界など」

「帝！お止めください」

ぱりん、と壺か何かが割れる音がした。

皇女は鏡を叩き割った。生まれて初めての感情がこみあがる。

「何故？」

なんだろうか？頬を伝うこの水は。

天帝は黙って家臣たちの話を聞いていた。

「人間共は、女一の宮さまにかぐや姫とかいう下賤な名前をつけていましたよ」

「あちらの世界で最も高貴な人間の目にとまったとか。さすが、宮さま」

口々に娘を褒める声。

娘は父に対する叛逆の罪で地上に落とされた。

地上に落とされることは、地上の言葉で言つと「死罪」に等しい。

地上に落とされる前、娘は父にこう言った。

「私は退屈だったのです。平和すぎる、この天に嫌気がさしたので  
す」

馬鹿な娘だ。退屈こそが幸福だということに何故、気づかない。

永遠に、恋焦がれ、涙して過ごすつもりか。

記憶を失っても、忘れることができな感情に身を焦がして・・・。  
永遠にのたうちまわるのか・・・。

(後書き)

素材は「竹取物語」です。

かぐや姫は天上でのことがほとんど書かれていませんが

\*高貴な人の娘(一説では天帝)

\*何か罪を犯した(ここは私の妄想)

ということはわかっています。興味があったら、図書館で調べてみてくださいね!

2010/11/1

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6530o/>

---

昔語り

2010年11月2日02時10分発行